



母の話

先日、日南高校母親委員会の方々と「生まれてくれてありがとう」というエッセイ集を作った。皆さんにお見せするのはもう少し先だが、親から子への愛情がぎっしり詰まったエッセイ集ができた。考えてみれば、私もたくさんの愛情を受けて育ってきた。そこで、今回は私の母について書こうと思う。

私は子供の頃、自分が生まれた時の話を聞くのが大好きだった。「大晦日は病院で過ごしたとよ。」母の昔話はいつだって大晦日から始まった。「紅白も病院のベッドで見た。」幼い私は何度も聞いたその話の続きを急かす。「逆子だったからすごく心配だったけど、なんとか生まれてきてくれて安心した。2000グラムちょっとの小さい赤ちゃんだった。」そこからしばらく、話は尽きない。祖母の家のベランダから真っ逆さまに落下したのにたんこぶだけで済んだのはなぜだろうという話、大嫌いな孔雀が放し飼いされているために動物園では常におんぶしなければならなかったという話、七五三の時につけられた口紅が気持ち悪くてむくっていた私の機嫌をとるのが大変だったという話…他にもたくさんあって書ききれない。楽しそうに話す母を見るのが好きだった。そういえば、最近では母とそういう話をしていない。

私が高校生の時に母は働き始めた。遅番の日は22時を過ぎないと帰ってこない。1度だけ、親がいないのをいいことに夜こっそり家を抜けて友達と遊んだことがあった。しかし家に帰った後には虚しさしか残らなかった。叱ってくれる人がいないのだ。ただ母を裏切った罪悪感だけが重くのしかかった。母のいる家がどんなに居心地がいいか。嫌いな野菜が入っていたとしても、あったかい御飯がどんなにおいしいか。私はそれを初めて知ることになった。

「おでこがそっくりだねー。」「いや、でも私はまだ皺はない。」と、歯磨きをしながら、鏡の前に似たような顔を並べて母と話したのは先週の話だ。ついつい憎まれ口をたたいてしまう私は、本当に可愛くない娘だと思う。本当は自慢の母なのに、素直になれない私は、母の前ではいつまでたっても甘ったれの子どものだ。「親孝行は親がいないとできんとよー。」という母の冗談を聞いて、ドキリとする。母がいることが当たり前すぎて普段は忘れていたが、皺は確実に増えている。言うとな怒るのだが。

私の誕生日は正月と共にやってくる。母と私が出会った記念すべき日である。「生んでくれてありがとう」なんて、恥ずかしくて多分（いや絶対に）言えない。が、せめてさりげない会話の中でも、心をこめて「ありがとう」と言いたい。

1年学年団 M

- 12/26(月)～28(水)は冬季課外です。8:20までに登校となります。短期間ですが、充実した期間にしましょう。
- 1/5(木)は3学期始業日です。服装容儀指導や、午後からは実力養成考査(課題分野のみ)も行われます。冬季課題は各教科とも計画的に取り組み、早めに終わったら、得意科目の補充や不得意科目の克服に充ててください。また、服装容儀検査でもチェックを受けることのないように、1年が気持ち良くスタートできるようにしましょう。

週行事予定表 (12/24～1/7)

月	日	曜	行事予定	課外
12	24	土	3年北予備プレテスト	
	25	日	3年北予備プレテスト、合勝うどん	
	26	月	冬季課外	8:20着席
	27	火	冬季課外	8:20着席
	28	水	冬季課外	8:20着席
	29	木		
	30	金		
	31	土		
1	1	日	元旦	
	2	月		
	3	火		
	4	水	3年のみ冬季課外、職員会議	
	5	木	始業日(大清掃・服装容儀指導・始業式・LHR)、(午後)第5回実力養成考査(国・英・数)	× 8:20着席
	6	金	1年朝課外再開	B 7:25着席
	7	土	土曜講座(第2週時間割)	

